

【クレーム情報】

フェイクファーのパイルの熱収縮

冬物衣料のジャンパーやコートには毛皮やフェイクファーなどで装飾しているものが多く出回っています。今回は、装飾に使ったフェイクファーのパイルが仕上げのスチームにより収縮した事例を紹介します。

■事故の状態

合成皮革のハーフコートで、衿・前立て・袖口に使用しているフェイクファーの毛先が丸まったような状態で硬くなっている。

■原因

スチームによる仕上げが原因で、フェイクファーを構成しているアクリル系繊維が熱収縮したものの。

アクリル系繊維は、アクリルに塩化ビニルを化学的に結合させた繊維。アクリルは、湿潤下70℃前後で物理的な性質が大きく変化する。アクリル系繊維はアクリルよりもさらに耐熱性が劣ることから、タンブル乾燥や仕上げでのトラブルに注意を必要とする。

■事故の防止対策

フェイクファーに60℃以上の温度をか

ける処理は避けること。

■フェイクファー

フェイクファーは、パイルの外観や風合いをフォックスやラクーンなどの様々な種類の天然の毛皮に似せたもの。裏側には織または編構造の基布が確認でき、一見して合成品であることが分かる。天然の毛皮と同様にコートやジャケットに縫製されたり、衿回りや袖口の飾り、コートのライナーなどに使用されることが多い。

フェイクファーに多く使用されるアクリルおよびアクリル系繊維は、合成繊維の中で一番ウールに近い風合いを持ち、染色性もよく様々な柄を表現することができ、耐薬品、耐カビ性にも優れている。このため、天然の毛皮と比較して扱いやすく、その雰囲気や安価で気軽に楽しむことができるが、熱や水分の影響を受けやすいものが多いことから、受付や取

扱いは次のような注意が必要。

■受付時のチェック

着用による毛倒れや毛乱れ、衿、裾回り、袖口などに擦れ、脱毛などがないかを確認する。

■取扱いの注意

- ・パイルを内側にしてネットの中に入れ、石油系溶剤での短時間処理を原則にする
- ・ウエットクリーニングする場合は、毛乱れや収縮などが生じやすいので、利用者の上承を得た上で行う
- ・レーヨン素材のフェイクファーは特に湿潤状態での強度が弱いいため、ウエットクリーニングを避ける
- ・乾燥はできる限り品物を動かさないようにして、60℃以下の温度で行う
- ・スチームによる仕上げは避ける



写真1 フェイクファーを使用したハーフコート



写真2 特に袖口の広範囲で毛先が丸まったような状態で硬くなっている



顕微鏡写真
毛先の繊維が溶けたような状態になっている

■品 物…ハーフコート
■素 材…本体表地：ナイロン・ポリウレタンの合成皮革
裏 地：綿の基布にアクリル系繊維のパイルを組み合わせたフェイクファー

■取扱い表示…

■処 理 方 法…石油系溶剤によるドライクリーニング、
パフによるスチーム仕上げ